

日本ヒューム

バルブボックス全国展開

弁室 P_{Ca}製 レベル2地震動に対応

日本ヒュームは、水道や下水道など地下ライフラインのバルブ・メーター類を設置するプレキャストコンクリート（P_{Ca}）製弁室「バルブボックス」の全国展開を開始する。北海道地区で多くの実績を有するP_{Ca}製水道用弁室を改良したもので、高い耐震性とともに優れた施工性を有している。高度経済成長期に設置された施設が老朽化し、人口減少などを見据えた再構築・広域化が求められるなかで、水道や下水道などのバルブ・メーター類とともに弁室や流量計室の更新需要が高まると見られており、同社では積極的に普及に取り組んでいく。

「バルブボックス」の元となったP_{Ca}製水道用弁室は、同社北海道支社が約30年前に開発したもので、地域オリジナル製品として販売を重ねてき

た。これまで250カ所、700基以上の実績を有するフルP_{Ca}製弁室。分割製造した部材を現場で組み立てることで構築する。各部材は軽量

スペースで残土処理費も少なく、現場打ちなど他工法と比較しても経済性に優れている。標準断面寸法は幅1000×高さ1500mm、幅3000×高さ3000mmまでの6種類。長さ5000~20000mmとなっている。部材の製造にあたっては可変型枠を

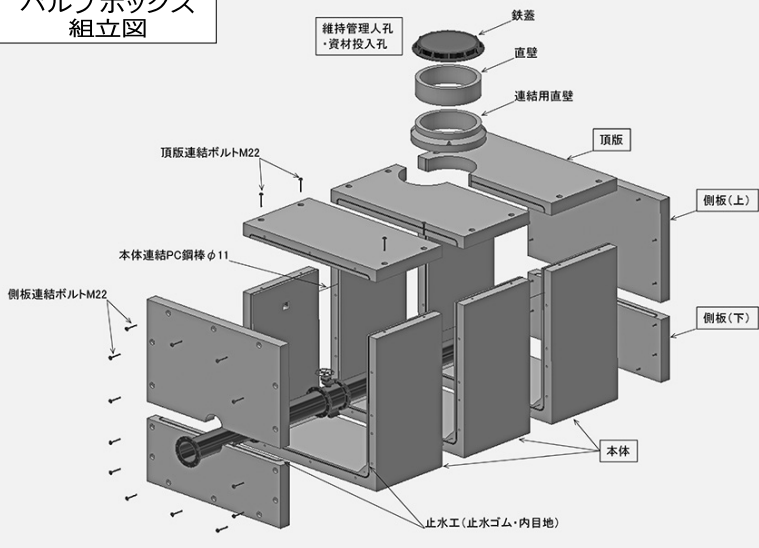
採用。全規格が同じ型枠で製造可能となるとともに部材の幅、高さ、長さ、厚さをそれぞれ100mmピッチで変更することができ、

小型クレーンでの施工が可能。仮設費などを低減できるとともに、掘削範囲が狭いため省

可変型枠は、国土交通省が推進する「i-Constructive」でも生産性向上につながるとして推奨されている。イニシャルコストは高くなるが、通常型枠に比べ1型枠で様々なサ

道などの管材の老朽化対策とともに、将来的な人口減少に対応してインフラの再構築、広域化などが求められており、流量計やバルブ類の新規設置が計画され、弁室の需要も増大することが見込まれている。

バルブボックス組立図



北海道で700基以上の実績をもつ地域限定製品を改良(写真は施工の様子)